

先生は棚から出てって言うけれど、
「僕はここが大好き。ここが僕の安心できる場所なんだよ。先生も入ればいいのにな〜」



「なんでパパとママはやくそくをやぶっても、ごめんね。わすれちゃった。」

で、おわるのに、ぼくがちょっとでもやくそくまもらなかったら、なんでまもらなかったの？やくそくしたよね？っていうの？」

画用紙をクレヨンで塗りつぶす子

「あー、ぐちゃぐちゃにしたらだめなんだよ。」と友達に言われるBさん。

その様子を見ていた保育者が「Bさん、いいね。」と声をかける。

Bさんはふと顔をあげて「好きなのかいいていいの？」と聞く。

「いいよ、好きなの描いてもいいし、先生のまねっこしてもBさんの描きたいもの描いてもいいよ。」と保育者。

その後、おえかきの時間は好きなものを描くようになったBさん。

そんなある日、画用紙からクレヨンの線がはみだし机が汚れてしまう。

それを見て「あーBさん、だめだよつくえにかいたら。よごれてる。」と友達。

「大丈夫だよ。間違えてもいいんだよ。」とその様子を見て保育者は声をかけた。

「え、まちがえてもいいの？」と目を輝かせるBさん。

「うん、間違えてもいいんだよ。間違えてもその後どうしたらいいかなって考える方が大切だから、間違えてもいいんだよ。」と保育者がこたえる。

それからは、Bさんが保育者の話を聞こうとしたり、信頼を寄せるように変わっていきました。

何気ない
こどもからの
一言に、考えさせられた
経験ありませんか？

こどもたちの声

「ぼく、もうおみずのまない！」

「なんでね〜？」

「だって、おねしょばかりしちゃうんだもん」

「ちょっとまってねって、あとでね、ってパパもママもいつもそう。今きいてほしいのにな。」

(絵本の貸し出しの時間)

「(絵本)どれにする？」

「いい。」

「なんで？見たい絵本見つからないかな？」

「ううん。だって、おうちにかえってもだれもよんでくれないもん。」

ままごとのお料理に夢中になって遊ぶA児

保育者：先生、はらべこだな〜

A児：………(無言)

保育者：いい匂い〜！何かごちそうになりたいなあ

A児：………(無言)

保育者：おなかぺっこべこだなあ(笑)

A児：………(無言)

他の遊びをしながらそのやりとりを見ていたB児がかけよってきて

B児：せんせい、Aは本当はね、ちょっとまってっていったるよ！

先生、知らんぷりされてかわいそうと思ったのか、自分の言葉でお友達の気持ちを想像して伝えてくれた思いやりにほっこりでした。

いっぱい聞いてね。いっぱい知ってね。

こどもまんなか

児童福祉
5/5~5/11 週間



毎年5月5日の「こどもの日」から1週間は、こどもや家庭、こどもの健やかな成長について国民全体で考えることを目的に「こどもまんなか 児童福祉週間」と定められています。

こどもも、おとなと同じように一人ひとりが認められ、また、大切にされるべき存在です。「この子はこういう気持ちかな」「なにを考えているのかな」と、今一度こどもたちの気持ちに向き合いませんか。こどもたちの行動には、こどもたちにしかわからない、こどもたちなりの理由があるのかもしれない。

この機会に、こどもたちの健やかな成長のため、私たちにできることを一緒に考えてみませんか。

そう、こどもたちは「うるまの宝」なのです。